る．しかし，「人間の頭髪の本数は有限か無限か？」と難しい顔をして尋ねれば，むろん，だれでも“有限”と答えるにきまっている．そこの所が，人間の認識に整合性を要求できない所以だといってもよいし，また，無限というものが，そもそも少なくとも凡人にはそのまま把握できるものではなく，「ウンと大きな数」の模型としての概念上のものだということもできる．

さて，ハゲと正常を上のように定義すれば，上記の帰納法にも問題はなくなる．頭髪の本数が有限の人はすべてハゲであり，これに有限本の頭髪を増やしても，まだ頭髪の本数は有限だから，ハゲは直らない．また，正常の人の頭髪の本数は無限だから，むろんハゲではないし，1本や2本毛を抜いてもハゲにはならないということになる．すべての有限なnについて，$\infty - n = \infty$だからである．

この議論いかがなものであろうか？

（からくり堂主人）

研究部会報告

数理計画

- **第7回**（臨時）

日時：11月4日(火)　**場所**：統計数理研究所　**出席者**：15名

講師とテーマ：E. Spedicato (University of Bergamo) “Stability of Quasi-Newton Method for Unconstrained Optimization”

- **第8回**

日時：11月22日(土)　**場所**：統計数理研究所　**出席者**：25名

講師とテーマ：

1)久保田光一(東京大学)「高速微分法による線形方程式解法の丸め誤差の推定」

2)山下　浩(数理システム)　“An Algorithm for Linear Programs with Polynomial and Superlinear Convergence Property”

要旨：1)高速自動微分法の簡単な解説のあと，計算された関数値に含まれる丸め誤差の推定ができるという高速微分法の利点にもとづき，線形連立方程式系を解くときの丸め誤差およびスケーリングの影響が論じられた．

2)Ghellinck and Vialの変数と伊理・今井の乗数的罰金法を組み合せることにより，多項式オーダーの解法とニュートン法とを結合した線形計画法の新解法が提示された．

訂　正

第32巻第1号の表紙の一部に，印刷上の手違いから誤りがありましたので訂正いたします．表紙上部に“新シリーズ第1巻”とありますが，これを削除いたします．　（編集委員会）

待ち行列

- **第29回**

日時：12月5日(土)　14:00～16:00

場所：東京工業大学情報科学科会議室　**出席者**：26名

テーマと講師：

- Q29-1　Mathematical Statistics for Queueing Systems (GDR・Dieter König) 待ち行列システムの種々の特性量について，どのような特徴に着目し，いかに観測するか，数理統計学の立場から解説した．
- Q29-2　An Approximate Analysis of the Routing in Completely Connected Networks (電通大・小野里好邦)あるルーチング方式の基本特性を解析した．

会員近況・声

江崎和代　神戸商科大学商経学部管理科学科

私の所属する管理科学科では，“システムの望ましい設計と運用”に関する科学と技術を修得することを目標に授業が進められております．その中で，私の所属する真鍋ゼミでは，3回生の間，ネットワーク理論について，文献を参考に議論をしたり，プログラミングを行なったりしています．私個人としては，現在，卒論テーマに，パッキング問題をとりあげ，頭を悩ます毎日です．2次元パッキング問題（パレットに等しい大きさの箱をつめ

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

る）を主に扱っているのですが，最適解を見つけるアルゴリズムがないため，既存のアルゴリズムを試行錯誤的に改良するというかなり原始的(?!)な方法をとっております．この2次元パッキング問題を3次元パッキング問題に拡張しようと，アブストラクト集などを参考に考えているのですが，しょせん，大学生が考えているもの／なので，なかなか実社会のパッキングに役立つようなシステムは組めません．実社会で一体どのようにパッキング問題を処理していらっしゃるのか，興味のあるこの頃です．

会合記録

国際会議調整委員会	12月1日(月)(6)
編集委員会（OR誌）	12月2日(火)(7)
国際委員会	12月8日(月)(5)
研究委員会	12月9日(火)(4)
30周年記念事業委員会	12月9日(火)(8)
OA委員会	12月11日(木)(3)
研究普及委員会	12月16日(火)(12)
庶務幹事会	12月18日(木)(7)
編集委員会（JORSJ）	12月19日(金)(6)

次号予告

特集　問題解決法としてのOR

組織としての問題意識統一
　関係者の合意へのOR的方法のすすめ　小田部　斉
問題構造化のプロセス　川瀬　武志
モデルとモデリング　山田　善靖
モデルと組織の整合
　技術的妥当性と組織的妥当性　井上　一郎
役割規定――心理的な詰めのうまみ　太田　敏澄
ORと「組織の革新」を考える　高井　英造
誌上シンポジウム・討論会
　問題解決法としてのOR　松田武彦，他
連載　会計計算の図解(3)　中村善太郎

編集後記▶大寒もすぎ，南の方からは梅の便りも届いておりますが，北国では，まだまだ長い冬が続いております．ストーブを真っ赤に燃やして，甘酒を飲みながら，ご覧になっている方もいらっしゃるかもしれません▶冬のスポーツとしては様々なものがありますが，特にスキーは，いまや夏のテニスと並んで，若者の間でもっとも人気のあるスポーツです．また，解説書も巷に溢れており，ゴルフやテニスと同様に，力学的な観点から，その回転のメカニズムや滑りに対して，科学的なメスを入れたものもあります▶今月号のテーマは「雪」でしたが，お楽しみいただけたでしょうか．雪に対する感じ方は，雪国に生まれ育ったものと，そうでないものとでは随分異なるようです．雪のあまりないところで生まれ育った人にとっては，雪とは幻想的で，美しいもののようですが，雪国の人間にとっては，随分と厄介なものです．屋根に降り積もった雪を降ろしている最中に，雪の下敷きになって亡くなるという悲しい事故が，毎年必ずといってよいほど起こっていますし，雪国における冬の交通事故で目につくのは，雪をあまくみたことによって起こる事故です▶最近，冬にはとかく部屋の中に閉じこもりがちになり，運動不足になる人々を外に出そうという様々な工夫が，地方の自治体によって行なわれています．たとえば，札幌市では，歩くスキーを積極的に普及させ，市民の冬のスポーツとして，取り入れています．このような雪国ならではの文化を作ることが，これから必要になってくるのではないでしょうか．（J）

オペレーションズ・リサーチ

昭和62年2月号　第32巻　第2号　通巻314号
代表者　吉山博吉
発行所　社団法人　日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2―4―16　学会センタービル
(電話　03-815-3351～2)　〒113
編集人　柳井　浩
発売所　株式会社　日科技連出版社
東京都渋谷区千駄ヶ谷5―4―2　〒151

• 本誌のご注文は直接
日本オペレーションズ・リサーチ学会へ　定価　850円（郵送料含）年間予約購読料 9600円（郵送料含）
• 本誌への広告お申し込みは明報社（571-2548），日経弘報社（563-2241）へ

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．